

評価委員会評価結果（案）に対する意見

平成19年度の業務運営が、全体として「中期目標の達成に向けて順調に進んでいる」と積極的に評価していただいたことに感謝したい。

以下、部分的ではあるが公立大学法人鳥根県立大学としての意見を申し上げたい。

1) 3 - (1) 年度計画の評定平均値による各項目別評定結果における「新たな大学構想の確立と実現に向けた取組」に係る評価について

「新たな大学構想の確立と実現に向けた取組」について、平成20年度に予定されていた大学院の北東アジア研究科と開発研究科の統合が平成21年度に延期されたことから、当該年度計画（1の第1項目）に対する評価が「3」に、項目の評定については「B」として評価されている。

しかし、平成19年度計画が意図する大学院改革については、両研究科統合の文部科学省への手続きは外的要因により先送りしたものの、教育課程の見直しと教員組織の再編については、学内会議を相当の頻度で開催し学内での合意形成を図った上で、平成19年度中に実施できるものはほとんど実施しており、「平成20年度からの統合を目指す」という文言に重きを置いた今回の評価は形式的であり、より実質的な内容に立脚した評価を期待したい。

2) 4 - 地域に根ざし、地域に貢献する大学の評価における、特筆すべき点（注目される点）の追加について

下記の点を、特筆すべき点に追加していただきたい。

短期大学部出雲キャンパスにおいては、医療に係る地域力の醸成や、地域との密接な関わりを通じた看護教育システムの構築に積極的に取り組んでいる。（48、49）

特に、平成19年度においては次の取組がG P採択となり、地域に根ざした活動を強化しているところである。

- ・特色G P「地域に広がる新しい看護ニーズに応える教育」
- ・現代G P「地域を基盤とする看護教育への変革」

前者においては、従来より実施してきた訪問看護実習を核にして、地域のもつ教育力を看護教育に取り込み、専門能力の獲得と人間形成の促進を図る取組を展開している。

後者においては、医療が入院から在宅へと変化する中、新たに大学に設置した「地域連携ステーション」が、がんサロンなどの地域の自主グループに関する情報収集、発信の機能、学生と地域との間をつなぐ役割を果たしながら、その中で発生する学生と自主グループとの連携等を通じて、地域が抱える健康課題の解決への支援と、生活者の理解、地域基盤型志向などを身につけた人材育成を目指して取り組んでいる。

以上の取組は、地域に根ざし地域に貢献する大学として、特に成果を上げていると評価できるものと考えらる。